

何度でも云う：巨きい政府は諸悪の根源 (1)

埼玉県 河登一郎

【1】政官財癒着と腐敗の現状

(1)大蔵省／日銀幹部の過剰接待と裁量への手心／情報リークの問題が騒がしい。世論の追求に対して大蔵省も日銀も従来に比べれば、多数に及ぶ内部処分を行ったように見えるが、これでも大蔵省の処分は証券局関連に絞られ、主計、主税、銀行などの各局は免れた。

(2)いずれにせよ、氷山の一角、浜の真砂である。ここに1年間に新聞に出た汚職事件だけでも上記の他、建設省・厚生省・農水省・道路公団・警察OB・国会議員・地方自治体首長などなど、我々自身麻痺してすぐ忘れてしまうほどである。マスコミが取り上げない中小型の汚職や談合を含めた実態は依然としてすさまじい。

(3)新井将敏氏は建前(清新な政治家でありたい)と本音(金はほしい。金を作れる権力はある)のギャップに悩んだ末、自殺してしまった。(もっとも新井氏の自殺の背景の一つに功を焦った検察当局の権力をバックにした捏造だという有力な見方もあり、これは別の問題を孕んでいるが、新井氏自身に権力を持んだ暗い面があったことは否定すべくもあるまい)氏の自殺で“助かった”大物政治家が何人もいたと言うのもやり切れない話である。死人にむち打つ非礼は避けたいが、あれほどの人物が男一匹自殺するだけの覚悟があるのなら、初心に戻り、身を捨てて巨悪を暴露し、政治浄化に大きな一石を投じて欲しかった、と思うのは、筆者一人ではあるまい。今となってはどうしようもない。

(4)このような事件が頻発する原因として公務員の倫理観の欠如が指摘され、対策として公務員倫理法の改訂が国会で審議されているが、案の定、自民党が骨抜き提案をしたために、与党内でもめていることは周知の通り。仮に倫理法が拡充されれば腐敗は絶滅するだろうか、もちろん、それなりの効果はあるにしてもこれで癒着がなくなると思っている人は皆無だろう。そして巨額の予算があり、競争市場を通さぬ裁量権限が存在する限り、腐敗はなくなならない。新法の規定に抵触しない新手の腐敗はなくなならない。新法の規定に抵触しない新手の賄賂を考える知恵は誰でも持っている。現にある中央官庁の“キャリア課長”の発言として「割り勘でゴルフに行けば良いんですよ。ゴルフのにぎり(賭け)のハンディは当人同士の合意だし、誰かが当日“珍しく不調”になることは、いつも起こることですよ」。

オープンな市場を通した公正な競争を経ることなく、権限を持つ人の裁量で、巨額の予算が配られる限り、自社に有利な裁量を得るために、MOF担・MITI担・建設担・厚生担・日銀担・叙勲担・〇〇担・△△担・・・とタンタン狸は浜の真砂である。

(5)この問題が深刻なのは、他人事として批判する立場ではなく、我々自身が、そのような場面に置かれた場合を想像してみると良く分かる。

こんなお堅い文章を書いている筆者自身も、これを読んでおられる諸兄姉もおそらく世間の標準からすれば、超マジメ人間に分類して良いであろう。し

かし、そんな超マジメ人間でも自分自身が、例えばA銀行のMOF担として、強力なライバルであるB銀行・C証券・D信託の腕利きと、大口政府債の幹事獲得競争の場に立たされた時、あるいは大型公共事業の受注を巡って、X建設・Y土木・Z開発間の熾烈な受注競争に勝ち抜く指示が与えられたとして、そして発注者側には競争原理が働かず(すなわち、大義名分さえつけば経済原則は重要でない、例えば暖房機が4つ買える金額で1つを買っても平気なシステム：財源は税金という他人の金が何兆円もある)受注者側にだけ熾烈な競争原理が働く競争の場面で、企業として、担当者として良心に従った正攻法だけを期待できるだろうか。競争場裡からの脱落を覚悟しない限り一般的に期待できることではない。私自身、長いサラリーマン生活で、これに似た状況に何回遭遇したことか。

【2】合法的な経済犯罪と壮大なムダ遣い

(1)上記の例のように法的にも犯罪に該当するようなケースならそれなりの対応もあろう。倫理法の拡充もそれなりの効果は期待したい。

(2)しかし、我が国が直面している、もっと深刻な問題は表面的には合法の衣をまといながら、実質的には経済犯罪や何兆円にもものぼる“壮大なムダ遣い”である。

(3)この具体例を論じ出すと、それだけで本を10冊は書かなければならないので(恐らくこの10年間だけでも政府のムダ遣いに関する実態報告は、雑誌の特集や論文を含めると優に数万部は越えていよう)ここでは項目だけ羅列してみたが、それだけでも

気が遠くなるほどの拡がりや深さである。

①ほとんど使われない／極端に経済効率の悪い農道・林道・ダム・空港・港湾施設・・・これらの多くは経済的に浪費であるばかりでなく、取り返しのつかない環境破壊の原因にもなっている。

②同じく、利用者不在の美術館・美術品・博物館・展示館・豪華な都道府県庁舎、市町村庁舎、官営／第三セクター主体のホテル・リゾート施設・温泉会館等々・・・。

③自然な河川をコンクリートで破壊しておいて、“自然を再生する”ために巨額の再投資＝戦争と同様。需要は無限。”

④アメーバの如く増殖を続ける特殊法人と関連企業群。そこに巣くう天下り官僚群。

⑤過剰検診・過剰投薬、やり放題の医療行政伏魔殿と言われる福祉／介護関連施設。

⑥補助金・交付金・借金漬けの地方自治体財政。

⑦民営化後も際限なく増え続ける旧国鉄債務。

⑧住専への“公的資金”の導入。

金融機関への“公的資金”の導入。

⑨公共事業をめぐる談合。指名受注。資格登録制度・・・。

⑩食糧費・架空の出張旅費・議員ご一行様の恥かき“視察旅行”・・・。

⑪あああ！！！！

(続く)